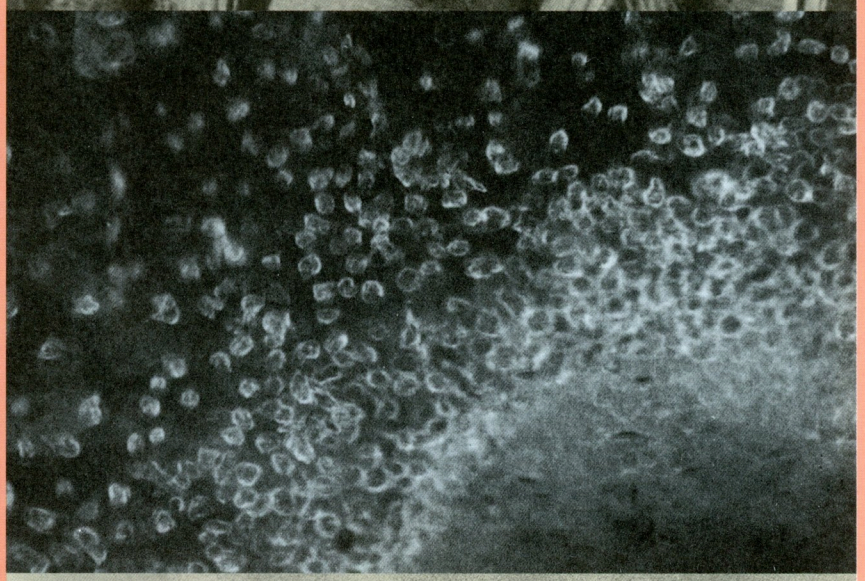
NFC

NFC CALENDAR



大ホール(2階)

A フィルムは記録する'98：
日本の文化・記録映画作家たち
Glimpses of Nippon '98:
A Japanese Documentary Tradition
2月10日㊋—3月7日㊏
3月17日㊋—3月28日㊏

展示室(7階)

写真の現在—距離の不在
「都市」をめぐる5つのアプローチ
Photography Today—The Absence of Distance
2月10日㊋—3月28日㊏

- 2月—3月の休館日：日曜日・月曜日，3月31日(火)
  休映日：3月10日(火)—3月14日(土)
  ＊展示室は休映日にも御利用になれます。

大ホール

料金＝一般410円／学生250円／小人180円
定員＝310名
発券＝2階受付

- 観覧券は当日・当該回にのみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行ない，定員に達し次第締切となります。
- 開映後の入場はできません。
- 各回入替制です。

展示室

開室＝休館日以外の火曜日—土曜日
(午前10時30分—午後6時／入場は5時30分まで)
料金＝一般210円(170円)　学生120円(90円)　小人90円(50円)
- (　)内は20名以上の団体料金

発券＝7階受付

図書室(4階)

開室＝休館日，休映日，祝日，臨時休室日以外の火曜日—金曜日
(午前10時30分—午後6時／入室は5時30分まで)

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

1998
2-3
NFCカレンダー
98年2月・3月号

大ホール上映作品

フィルムは記録する'98：日本の文化・記録映画作家たち

Glimpses of Nippon '98: A Japanese Documentary Tradition

昨年の企画「フィルムは記録する'97」では，戦前・戦中期に登場した文化映画・記録映画のパイオニアたちの作品を中心に紹介し，長篇劇映画と並んで興隆しつつあったもう一つの映像文化の系譜をたどりました。これに引き続き，今回の特集では重心を第二次大戦後に移し，敗戦に伴って政治・経済情勢や日常生活の枠組が大きく転換する中で，「文化映画の黄金期」を経験した戦前からの映画作家たちがいかなる方向性を求めたか，また戦後になって活躍の機会を得た作家たちがどのように製作システムを確立し，固有のテーマと表現を持つに至ったかを概観します。

この時期には数多くの特徴的な製作会社が設立され，戦後民主主義の思潮や高まる労働運動を背景にした社会批判的な作品が発表された一方，科学映画の分野ではカラー・フィルムの導入や顕微鏡撮影の発達が新しい地平を切り開きました。また製作面では，戦前の文化統制に代わって企業のスポンサーによるPR映画が盛んになり，1950年代中頃からは，一般の劇映画と同じく商業劇場で公開される長篇作品が製作されるようになってゆきます。

この特集上映は，微視的にそして巨視的に世界を見つめようとするこれらの視線を介して，戦後日本のノンフィクション映画が持ち得たインパクトを体験する好機となるでしょう（コラムごとの最初の**太字**は番組名です）。

■監＝監督・演出　製＝製作・企画　原＝原作・原案
脚＝脚本　構＝構成　撮＝撮影　美＝美術　編＝編集
録＝録音　音＝音楽　解＝解説　出＝出演
■本特集には不完全なプリントが含まれています。
■記載した上映分数は，当日のものと多少異なることがあります。

表紙：生きていてよかった，ミクロの世界 ―結核菌を追って―，カラコルム，―東京裁判― 世紀の判決（上から）

A-1　2/10(火)3:00pm　2/26(木)6:30pm　3/24(火)3:00pm

日本映画社：吉野馨治と小口禎三（計71分）

「雪の結晶」（1939年，東宝文化映画部）で注目された吉野馨治（1906～72）は，戦後，気象学研究と映画との接点をまず日本映画社に見い出すが，小口禎三や吉田六郎といったカメラマンを擁したその製作活動は後の岩波映画製作所の設立につながってゆく。また十字屋映画部出身の奥山大六郎らも同社で一連の秀作を発表し，科学映画の復活を告げた。

霜の花（20分・35mm・白黒）
'48（日本映画社）(指導)中谷宇吉郎，花島政人(撮)吉野馨治，吉田六郎，小口禎三(音)伊福部昭(解)徳川夢声

北方の霧（15分・16mm・白黒）
'48（日本映画社）(監)(脚)竹内信次(製)吉野馨治(撮)小口禎三(録)浦田文夫(選曲)小津淳三

魚の愛情（18分・35mm・白黒）
'47（日本映画社）(監)(脚)奥山大六郎(原)太田仁吉(撮)八幡治夫(選曲)鈴木林藏

生きているパン（18分・35mm・白黒）
'48（日本映画社）(監)奥山大六郎(製)石本統吉(原)太田仁吉(脚)新庄宗俊(撮)小林米作(録)浦田文夫(選曲)武田俊一

A-2　2/10(火)6:30pm　2/27(金)3:00pm

日本映画社：柳沢寿男（計86分）

戦時の映画統制下で松竹京都撮影所から日本映画社に移籍した柳沢寿男（1916～）は，敗戦後間もなく，同社が教育映画の製作に重点を置いた時期に活躍する機会を得た。とりわけ単独でのデビュー作「富士山頂観測所」はその重厚な描写が高く評価され，その後日本映画新社への改組の際にフリーとなってからは各社にまたがって多くのPR映画に携わることになる。

炭坑（33分・35mm・白黒）
'47（日本映画社）(監)伊東壽惠男，柳澤壽男(製)加納龍一(撮)川口和男，橋本正(録)佐藤肇(音)飯田信夫(解)石黒達也

富士山頂観測所（21分・35mm・白黒）
'48（日本映画社）(監)(脚)柳澤壽男(製)多胡隆(撮)中村誠二(録)酒井栄三(選曲)小津淳三

海に生きる 遠洋底曳漁船の記録（32分・35mm・白黒）
'49（日本映画社）(監)柳澤壽男，樺島清一(製)中村正(脚)竹内信次(撮)林田重男，清水浩，関口敏雄，山口貫郎(録)國島正男，香月宏介，廣上庄三(選曲)鈴木林藏(解)松本克平

A-3　2/11(水・祝)1:00pm　2/27(金)6:30pm

理研映画から新理研映画へ（計98分）

理研科学映画は再開の第一歩として，「あなたの議會」を第1集とする社会時評シリーズ「シネトピックス」を製作，理研映画と名称を改める。困難な経営が続く中で，1952年5月新理研映画として再出発したが，ニュース映画とPR映画を中心とする製作方針にあって「死の灰」は数少ない教育映画の系譜に入る。また「青い指紋」は，犯罪捜査を扱った警視庁後援のセミ・ドキュメンタリー（新東宝系公開）。

あなたの議會［部分］（11分・16mm・白黒）
'46（理研科学映画）(監)菅沼完二(撮)廣川朝次郎(録)琴清

死の灰（23分・16mm・白黒）
'54（新理研映画）(指導)木村健二郎(構)島内利男(製)笛木重三郎(撮)大内守(録)太田千里

青い指紋（64分・35mm・白黒）
'52（理研映画）(監)青戸隆幸(製)上島雅文，小山誠治(脚)長谷川公之(撮)高井四郎(録)井上俊彦

A-4　2/11(水・祝)4:00pm　2/28(土)1:00pm

新世界映画社（計67分）

1949年に消滅した新世界映画社の前身は日本映画社，理研科学映画，電通映画社と共に戦中を代表する大プロダクションであった朝日映画社（1947年に改称）。戦後初期の作品には，軍国主義的な歴史教育の廃止に伴って普及した古代史研究，盛り上がる労働組合運動など，変動する社会情勢が鮮明に反映されている。後2作品は1947年に誕生した労働組合映画製作協議会（労映）の委嘱作品である。

古代の農民生活　登呂（11分・35mm・白黒）
'48（新世界映画社）(監)小山鵠郎(製)島崎清彦(脚)村山英治(撮)岸田崇典(音)諸井三郎(解)徳川夢声

少女たちの発言（20分・16mm・白黒）
'48（全国繊維産業労働組合同盟＝新世界映画社）(監)京極高英(脚)厚木たか(撮)橋本竜雄

号笛なりやまず（36分・35mm・白黒）
'49（労映国鉄映画製作団＝新世界映画社）(監)浅野辰雄(脚)大沢幹夫(撮)仲沢博治（半次郎）

A-5　2/12(木)3:00pm　2/28(土)4:00pm

中村麟子と日映科学映画（計84分）

戦前に芸術映画社（GES）の中心人物として活躍した石本統吉（1907～77）は，日本映画社の教育映画部解散（1951年）に伴って日映科学映画製作所を創立，十字屋映画部系のスタッフとともに優れた科学映画の伝統を継承した。そして，生活科学などの平易な解説で目ざましい活躍を示した中村麟子（1916～）がプロダクションを代表する作家として成長していく。

結核の生態（20分・16mm・白黒）
'52（日映科学映画製作所）(監)(脚)奥山大六郎(製)石本統吉(撮)小林米作(録)國島正男(音)武田俊一(動画)村田安司

結核と斗う（18分・35mm・カラー）
'56（日映科学映画製作所）(監)奥山大六郎(撮)後藤淳

眞空の世界（11分・16mm・白黒）
'53（日映科学映画製作所）(監)(脚)中村麟子(製)石本統吉(撮)広木正幹

小さな芽ばえ（35分・35mm・白黒）
'58（日映科学映画製作所）(監)(脚)中村麟子(製)小林正忠(撮)後藤淳，川村浩士，野見山務(録)大橋鉄矢(音)片山光俊

A-6　2/12(木)6:30pm　3/3(火)3:00pm　3/28(土)1:00pm

小林米作と東京シネマ（計97分）

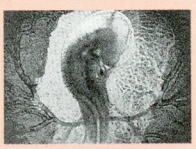
奥山大六郎と共に十字屋映画部の傑作群を世に送り出した顕微鏡撮影の名手小林米作（1905～）は，岡田桑三率いる東京シネマ（1954年創立）に加わり，そのスタッフとともに日本の科学映画を国際的な水準に高めた。この頃導入されたイーストマンのカラー・フィルムが，超微速度撮影の生み出すドラマティックな効果を支えている。

ビール誕生（15分・35mm・カラー）
'54（東京シネマ）(監)柳沢寿男(製)岡田桑三(脚)吉見泰(撮)小林米作(特殊写真)木村伊兵衛(解)高島陽

ミクロの世界 ―結核菌を追って―（29分・35mm・カラー）
'58（東京シネマ）(監)大沼鉄郎，杉山正美(製)岡田桑三(脚)吉見泰(撮)小林米作(編)伊勢長之助(録)片山幹男(音)松平頼則(解)篠田英之介

マリン・スノー ―石油の起源―（17分・35mm・カラー）
'60（東京シネマ）(監)野田真吉，大沼鉄郎(製)岡田桑三(脚)吉見泰(撮)小林米作，春日友喜，豊岡定夫(録)片山幹男(音)間宮芳生(解)高島陽

生命誕生（17分・35mm・カラー）
'63（東京シネマ）(監)渡辺正己，大島正明(製)岡田桑三(脚)吉見泰(撮)小林米作，浅野勲，永井弘道(録)片山幹男(音)一柳慧(解)篠田英之介



カルピスの誕生（19分・35mm・カラー）
'67（東京シネマ）(監)渥美輝男(撮)中尾駿一郎

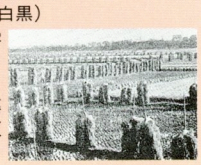
A-7　2/13(金)3:00pm　3/3(火)6:30pm

太田仁吉と科学映画研究所（計67分）

我が国における科学映画のパイオニア，太田仁吉（1893～1954）。戦中のブランクから復帰した彼は，自らが開拓した自然観察の分野で積極的な活動を再開する。戦前作品の豊かなヴァリエーションからはいくつもの古典的作品が生まれた。動植物に注がれるその細やかな観察眼が，全農映による一連の農業映画で発揮されているのも興味深い。晩年の1953年には自ら科学映画研究所を創立して活動を続けた。「阿寒湖のまりも」，「日本の稲作」はともに死後に完成した遺作に数えられる。

阿寒湖のまりも（15分・16mm・カラー）
'54（科学映画研究所）(監)(製)(脚)太田仁吉(原)西村眞琴(撮)関口敏雄(録)田中啓次(音)伊福部昭

日本の稲作（52分・16mm・白黒）
'54（全国農村映画協会＝科学映画研究所）(協力)太田仁吉，中尾重巳，中山亘，加納竜一，鈴木喜代治，樺島清一，伊藤宣二，鈴木達男，関口敏雄，坂崎武彦，鈴木武夫，浦井武治，尾山新吉，谷口豊一



A-8 2/13(金)6:30pm 3/4(水)3:00pm

水木荘也と三井芸術プロ（計72分）

文化映画の理論面を重視した製作集団，芸術映画社（GES）出身の水木荘也（1910～）は，戦後になって芸術映画の分野に活路を見い出す。美術スライドを作っていた三井嵩孟（たかもり）は，理研にいた水木や，同じくGES出身の村山英治と出会ったことで「上代彫刻」を製作，それが三井芸術プロの創立に発展した。

上代彫刻（18分・16mm・白黒）
'52（三井芸術プロダクション）監水木荘也製村山英治脚千澤禎治撮永塚一栄音早坂文雄解三神茂

桃山美術（18分・16mm・白黒）
'52（三井芸術プロダクション）監水木荘也製三井高孟脚近藤市太郎撮川村清衛編下坂利春音松平頼則

平安美術
（18分・16mm・白黒）
'57（三井芸術プロダクション）監水木荘也製三井高孟脚野間清六撮牛山邦一録大橋鉄也音池野成解村瀬幸子

天平美術（18分・16mm・白黒）
'57（三井芸術プロダクション）監脚水木荘也撮岡田三八雄編岩佐寿枝録安恵重遠音内藤孝敏解宮田輝

A-9 2/14(土)1:00pm 3/4(水)6:30pm 3/24(火)6:30pm

亀井文夫と日本ドキュメントフィルム［1］

（計95分）

大戦終結の報を受けて，亀井文夫（1908～87）はまず戦時中のニュース映画の映像を活用した「日本の悲劇」で天皇・軍部の戦争責任を問い，続く劇映画「戦争と平和」（1947年）とともに本格的な活動を再開する。だが「日本の悲劇」はGHQにプリントを没収され，東宝争議の激化とともに一度は記録映画のフィールドから退いた。その復帰は，「基地の子たち」（1953年）で基地問題（砂川闘争）に関わり，自ら日本ドキュメントフィルム（初期は日本ドキュメンタリーフィルム）を興してからになる。

日本の悲劇 自由の声（39分・35mm・白黒）
'46（日本映画社）編亀井文夫，吉見泰製岩崎昶解丸山章治

流血の記録 砂川（56分・35mm・白黒）
'57（日本ドキュメントフィルム）編撮亀井文夫製大野忠撮武井大，植松永吉，城所敏夫，勅使河原宏，大野快編豊富靖，渡辺正己，岸富美子録奥山重之助，大橋鉄矢，大野松雄音長沢勝俊解寺島佳子

A-10 2/14(土)4:00pm 3/5(木)3:00pm 3/25(水)3:00pm

亀井文夫と日本ドキュメントフィルム［2］

（計127分）

基地問題と並んで，日本ドキュメントフィルム創立時の亀井が最も大きな関心を寄せたのは原水爆禁止運動であるが，それは新藤兼人の「原爆の子」（1952年）に刺激を受けたものであった。被爆者の苛酷な生活を捉えた「生きていてよかった」では，別に録音した声を後に合成させる手法を用い，また「世界は恐怖する」では科学映画的なアプローチで放射能の恐怖を示して社会に衝撃を与えたが，そのシンボリックなモンタージュ手法の是非についても議論が沸き起こった。

生きていてよかった（48分・16mm・白黒）
'56（日本ドキュメントフィルム）監亀井文夫製大野忠撮黒田清巳，瀬川浩編仁保春緒，守随房子録奥山重之助，大橋鉄矢音長沢勝俊解山田美津子（五十鈴）

世界は恐怖する 死の灰の正体（79分・16mm・白黒）
'57（日本ドキュメントフィルム＝三映社）監亀井文夫製大野忠，井上猛男撮菊地周，藤井良孝，臼田純一，西堀美知江編守随房子録大橋鉄矢，奥山重之助音長沢勝俊解徳川夢声

A-11 2/17(火)3:00pm 3/5(木)6:30pm

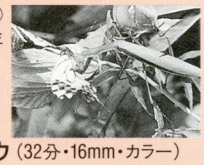
下村兼史（計104分）

「或日の干潟」（1940年）など，鳥や小動物の生態を捉えた一連の作品で理研科学映画に一時代を画した下村兼史（1903～67）。戦後はフリーとなったが，一貫して野鳥の姿をカメラに収めるべく新興の各社に製作の場を求め続けた。「ライチョウ」は長期間にわたって日本アルプスの高山地帯で撮影された，下村の遺作である。

ちどり（32分・35mm・白黒）
'46（東宝教育映画）監脚下村兼史製湯原甫撮浦島進美北辰雄録長岡憲治音服部正動画市野正二出落合富子，澤井一郎

或日の沼池（24分・35mm・白黒）
'51（東宝教育映画）監脚下村兼史製湯原甫撮村上喜久男録長岡憲治音渡辺浦人解田上嘉子

或日の草むら（16分・35mm・白黒）
'56（東映教育映画部）監脚下村兼史製山崎季四郎撮並川達夫音伊達純解近江正俊



特別天然記念物 ライチョウ（32分・16mm・カラー）
'67（日本シネセル）監下村兼史製静永純一脚編樺島清一撮伊藤三千雄，赤松威善，村瀬昭夫音三善晃解城達也

A-12 2/17(火)6:30pm 3/6(金)3:00pm

三木茂と三木映画社（計52分）

「黒い太陽」や「戦ふ兵隊」等で文化映画の確立に貢献した戦前の名カメラマン，三木茂（1905～78）は1945年以降，劇映画の世界に戻ることなく自らの三木映画社で多くの社会教育映画の製作に取り組んだ。柳田国男生誕百年記念会などの協力で製作された遺作「柳田国男と遠野物語」は，戦中の柳田国男との出会いから民俗学への関心を深めていた三木の念願の企画であったと言われる。

漁村のくらし（16分・16mm・白黒）
'55（三木映画社）監製脚撮三木茂

問屋のしごと
（11分・16mm・白黒）
'55（三木映画社）監三木茂

柳田国男と遠野物語（25分・16mm・カラー）
'76（三木映画社）監製脚撮三木茂

A-13 2/18(水)3:00pm 3/6(金)6:30pm

上野耕三と記録映画社（計89分）

1930年代にはプロキノ（日本プロレタリア映画同盟）に参加した上野耕三（1908～81）は戦後，記録映画社を創立（1950年），第1回作品「村の新地図」をはじめ農村教育映画を主とするPR映画の製作を手がけた。宮崎県高千穂地方の草刈風景に民謡を交えて詩情豊かに謳い上げた「刈干切り唄」は，戦前の「和具の海女」とともに「殆んど自由気儘に作った叙情的」作品であると述べている。

村の新地図（20分・16mm・白黒）
'50（記録映画社）監上野耕三

刈干切り唄（42分・35mm・白黒）
'59（記録映画社）監脚上野耕三撮金山富男録金谷常三郎音草川啓

姫路城
（27分・35mm・カラー）
'65（記録映画社）監製上野耕三脚北条明直撮金山富男音武田俊一

A-14 2/18(水)6:30pm 3/7(土)1:00pm

岩佐氏寿（計101分）

戦後「日本ニュース」の企画編集で活躍するとともに，広く記録映画界に影響力を発揮した岩佐氏寿（うじとし）（1911～78）。国鉄労組の十月闘争を記録した終戦直後の代表作「驀進」は，労働組合映画製作協議会（労映）の誕生（1947年）に先立つ先駆的作品。また数々の賞に輝いた「ひとりの母の記録」における《再現》をめぐって，同じ同盟通信社系の桑野茂との間に交された論争も有名である。

驀進（18分・35mm・白黒）
'46（国鉄労働組合）監岩佐氏寿

ひとりの母の記録（37分・16mm・白黒）
'55（岩波映画製作所）監京極高英脚岩佐氏寿撮加藤和三

森林 ―北海道の国有林―
（46分・16mm・カラー）
'63（東映教育映画部）監脚岩佐氏寿撮福井久彦音長沢勝俊解永井智雄

A-15 2/19(木)3:00pm 3/7(土)4:00pm 3/25(水)6:30pm

野田真吉（計126分）

戦後に各種の先鋭的な芸術グループに参加しながら記録映画運動の中心的存在として意欲的な創作＝批評活動を展開した野田真吉（1916～93）。「農村住宅改善」は過酷な自然環境と貧困のなかにある東北一円の農村住宅の構造の分析を通して生活改善を訴えた戦前期の作品。東北地方に集約される社会問題や素朴な生活への関心は「この雪の下に」以降，作品歴の中に大きな位置を占めることになる。

農村住宅改善（20分・16mm・白黒）
'41（東宝文化映画部）監野田眞吉製加納龍一撮福田三郎録酒井栄三音服部良一

この雪の下に
（33分・35mm・カラー）
'56（東京シネマ）監野田眞吉製岡田桑三脚吉見泰撮大小島嘉一録片山幹男音芥川也寸志解増田順二

東北のまつり 第1部・第2部・第3部
（43分・35mm・カラー）
'56-57（東京シネマ）監脚野田眞吉製岡田桑三撮植松永吉録片山幹男，加々良次郎音箕作秋吉解増田順二

忘れられた土地 ―生活の記録シリーズII
（30分・16mm・白黒）
'58（東京フィルム）監脚野田眞吉撮高橋佑次録大橋鉄矢音間宮芳生解高島陽

A-16 2/19(木)6:30pm 3/17(火)3:00pm

豊田敬太（計116分）

最初は劇映画の現場を志していたが，記録映画への関心から戦時中に理研科学映画に転じた豊田敬太（1912～）は，戦後になって「鉄道電化」でデビュー，とりわけ傾斜地の農民の重労働を捉えた「段々畑の人びと」により強い注目を浴びた。社会教育ドラマを得意とし，岩佐氏寿らと共に初期の東映教育映画部を支え続けた。

鉄道電化（22分・16mm・白黒）
'50（理研映画）監豊田敬太撮菅沼正義

段々畑の人びと（29分・16mm・白黒）
'54（新理研映画）監豊田敬太製笛木重三郎脚片岡薫撮萱沼正義編和田敬三録田中義造音岸清出中沢すみ江，高野二郎，木下ゆず子，島田文子，相良和文

九十九里浜の子供たち（33分・35mm・白黒）
'56（東映教育映画部）監豊田敬太脚岩佐氏寿撮浦島進録清島竹彦音三木稔解加藤嘉

煤煙の街の子どもたち
（32分・35mm・パートカラー）
'57（東映教育映画部）監豊田敬太製赤川孝一，栗山富郎脚岩佐氏壽撮黒田清巳録清島竹彦音三木稔解加藤嘉

A-17 2/20(金)3:00pm 3/17(火)6:30pm

菅家陳彦（計110分）

日本映画社を退社し，フリーで活躍した菅家陳彦（かんけ のぶひこ）（1923〜85）は，日本製鋼室蘭製作所における大量馘首に抗して家族ぐるみで闘われた烈しいストライキを，生活に根差した視点から記録し「日鋼室蘭」に結実させた。またプロデュース作品「月の輪古墳」では，郷土史を探る地元住民の姿を通して，戦前の歴史観を乗り越えた，庶民による文化運動の可能性を示した。

月の輪古墳（29分・16mm・白黒）
'54（月の輪映画製作委員会＝記録教育映画製作協議会）㊒荒井英郎，杉山正美，吉見泰㊥菅家陳彦㊤龍神孝正，川村浩士㊧片山幹男㊨箕作秋吉㊦丸山章治

197日の斗い 日鋼室蘭（24分・16mm・白黒）
'55（記録映画製作協議会＝総評）㊨菅家陳彦㊥大野忠㊤江連高元

流氷の町（57分・16mm・白黒）
'61（記録映画社）㊨㊧菅家陳彦㊥上野耕三㊩長光太㊤佐藤正㊧王鞍義明㊨伊福部昭㊦後藤陽吉

A-18 2/20(金)6:30pm 3/18(水)3:00pm

岡部久と山峡視覚教育研究所（計98分）

専ら農業教育映画の製作に情熱を傾けた岡部久（1913〜）は，自らが中心となって設立した山峡視覚教育研究所でユニークな活動を展開した。新潟県のPR映画として製作された代表作「芦沼」は，阿賀野川と信濃川の河口地帯にひろがる水田に施された排水設備の改良と，開発以前の沼地での小舟を用いた過酷な稲作や農民の貧困を圧倒的な迫力で対照させている。

ずいむし（24分・16mm・白黒）
'51（山峡視覚教育研究所）㊨㊧岡部久㊥（指導）太田仁吉㊤関口敏雄

芦沼（43分・16mm・白黒）
'54（山峡視覚教育研究所）㊨㊧岡部久（企画）野原正㊤岸田二郎㊧西川豊㊨伊藤宣二

稲と尿素（31分・16mm・白黒）
'57（山峡視覚教育研究所）㊨㊧㊤岡部久㊧田中啓二

A-19 2/21(土)1:00pm 3/18(水)6:30pm 3/26(木)3:00pm

岩波映画の誕生（計61分）

吉野馨治や小口禎三らは，日本映画社の再編を境に，かつて「雪の結晶」の指導に携わった北海道大学の中谷宇吉郎教授と共に，岩波書店の後押しで科学映画「凸レンズ」と「はえのいない町」の撮影を開始した。間もなく岩波映画製作所を創立，その科学精神がもたらした成功は文化・記録映画界を戦後の興隆へと導くきっかけとなる。

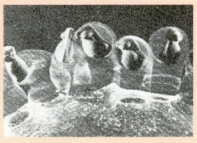
凸レンズ（16分・16mm・白黒）
'50（岩波中谷研究室）（指導）中谷宇吉郎㊥小口禎三㊤吉野馨治㊦古田弘子

はえのいない町（12分・16mm・白黒）
'50（岩波映画製作所）㊨村治夫㊧㊤吉野馨治

刃物のはたらき（11分・16mm・白黒）
'54（岩波映画製作所）㊨奥山大六郎㊧花島政人，小口八郎㊤吉田六郎，榛葉豊明

蚊（11分・16mm・白黒）
'54（岩波映画製作所）㊨㊤吉田六郎㊥吉野馨治㊧小口八郎

かえるの発生（11分・16mm・白黒）
'55（岩波映画製作所）
㊨㊤吉田六郎㊧小口八郎

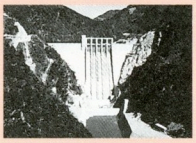


A-20 2/21(土)4:00pm 3/19(木)3:00pm 3/26(木)6:30pm

伊勢長之助［1］

桑野茂や岩佐氏寿とともに戦後「日本ニュース」の中心的なスタッフとして活躍した伊勢長之助（1912〜73）。戦後に製作された数多くの著名な記録映画が彼の編集を経て完成されている。ダム工法を革新したといわれる天竜川，佐久間発電所の建設記録「佐久間ダム」は，経済成長に伴う1950年代後半以降の産業PR映画の興隆を象徴する大作。大型機械の導入で着工からわずか3年余りで完成に至る合理的な築造工程が三部作にわけて詳細に記録された。今回上映されるのはその総集篇。

佐久間ダム［総集篇］（96分・35mm・カラー）
'58（岩波映画製作所）㊨㊧高村武次㊤小村静夫，加藤和三，藤瀬季彦㊥伊勢長之助㊨伊福部昭，芥川也寸志



A-21 2/24(火)3:00pm 3/19(木)6:30pm 3/28(土)4:00pm

伊勢長之助［2］（計78分）

担当作品の知名度や多様性に加えて，《編集の神様》と呼ばれた伊勢長之助が若い世代に及ぼした影響は多大だったと言われる。その（撮影現場への関心を敢えて排除した）編集室への執着＝「素材主義」に対する小川紳介の批評（「リズミカルな非常にテンポのいいモンタージュ，そして整合性」）からも，伊勢作品のスタイルが当時の記録映画にある種の規範を構築していた様子をうかがうことができる。

ー東京裁判ー 世紀の判決（17分・35mm・白黒）
'48（日本映画社＝新世界映画社＝理研映画）（製作責任）桑野茂㊥㊧松村清四郎，吉見泰，伊勢長之助㊤藤波次郎，淺井達三，大小島嘉一，高場峡㊧鈴木優，國島正男

野球教室 打撃篇（19分・35mm・白黒）
'49（日本映画社）㊨大峯淑生，伊勢長之助㊥中村正㊤積田貞雄，稲垣浩邦，橋本留次郎㊧国島正男㊨武田俊一㊦中澤不二雄，飯田次男

巨船ネス・サブリン（42分・35mm・カラー）
'61（岩波映画製作所）㊨楠木徳男㊥小口禎三㊥㊧伊勢長之助㊤牛山邦一㊧久保田幸男㊨芥川也寸志㊦芥川比呂志

A-22 2/24(火)6:30pm 3/20(金)3:00pm

日本映画新社：西尾善介（計92分）

戦後記録映画の主流で活躍した西尾善介（1915〜82）が日本映画新社で手がけた関西電力による黒部川第四発電所建設の記録。当時盛んに作られたダム建設のPR映画であるとともに，断崖や激流に閉ざされた人跡稀な秘境を舞台とした異色作である。景観の迫力で話題を呼んだ第一部と対照をなす第二部では，輸送路となる大町，黒部両トンネルの過酷な掘削工事をドラマティックに描いている。1968年に三船敏郎と石原裕次郎の共演で映画化された「黒部の太陽」の題材としても知られている。

黒部川第四水力発電所建設記録 第一部
黒部峡谷（39分・35mm・カラー）
'58（日本映画新社）㊨㊧西尾善介㊥堀場伸世，藤本修一郎㊤林田重男，丸子幸一郎，潮田三代治，藤田正美，今村俊輔㊥伊勢長之助㊧国島正男㊨別宮貞雄㊦藤倉修一

黒部川第4発電所建設 黒部峡谷 第2部
地底の凱歌（53分・35mm・カラー）
'59（日本映画新社）㊨㊧西尾善介㊥堀場伸世，藤本修一郎㊤藤田正美，潮田三代治㊧国島正男㊨別宮貞雄㊦藤倉修一

A-23 2/25(水)3:00pm 3/20(金)6:30pm

日本映画新社：桑野茂（計103分）

戦後「日本ニュース」の製作部長としても知られる桑野茂（1912〜77）が日本映画新社で手がけた代表作。「メソポタミア」は1956年に派遣された東京大学イラク・イラン遺跡調査団に随行し，アラブ諸国の歴史や風俗を紹介した長篇。この作品とともに我が国の記録映画にも大型スクリーンの時代が到来した。アナモフィック・レンズ（東宝スコープ）の装着によって機動性を奪われたアイモでの撮影は困難を極めたという。その制約を克服するためにジープからの隠し撮りを試みたという苦心談が残されている。

谷間の歴史（31分・35mm・白黒）
'54（日本映画新社）㊨桑野茂㊥白井茂，夛田忠㊤奈宮進㊨伊福部昭㊦小山源喜

メソポタミア（72分・35mm・カラー）
'57（日本映画新社）㊥㊧桑野茂㊥堀場伸世㊤中村誠二㊧国島正男㊨団伊玖磨㊦小沢栄太郎

A-24 2/25(水)6:30pm 3/21(土・祝)1:00pm 3/27(金)3:00pm

日本映画新社：林田重男［1］（計95分）

戦前から幾度も視線を海外に向け，「日本ニュース」でも活躍した行動派カメラマン林田重男（1910〜85）。戦後はより大きなスケールで，観客の視野の拡がりを反映した《世界踏破》の映像を支えることとなった。1956年6月に東宝系劇場で公開された「カラコルム」は，長篇記録映画が一般劇場で公開される流れを生んだ記念碑的な作品。また本特集では，長らく失われたと考えられていた満鉄作品「秘境熱河」（部分，横須賀市寄贈）の不燃化復元プリントを併映する。

秘境熱河［前篇・部分］（16分・35mm・白黒）
'36（満鉄・鉄路総局）㊧満鉄弘報係（芥川光蔵）㊤早川一郎，林田重雄㊧山口淳㊨紙恭輔㊦丸山章治

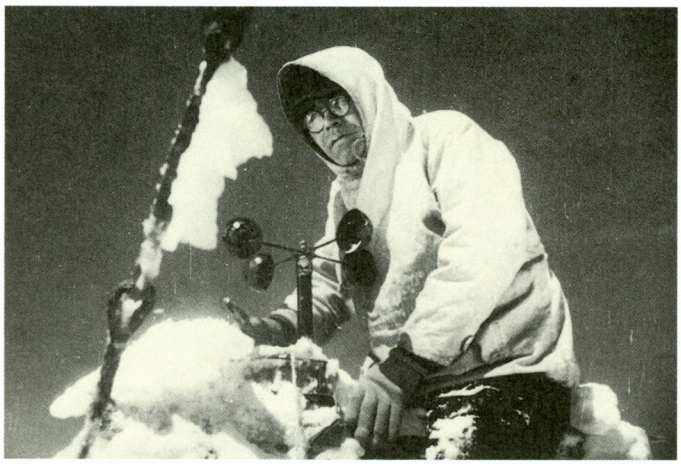
カラコルム（79分・35mm・カラー）
'56（日本映画新社）㊥㊧伊勢長之助，中村敏郎㊥堀場伸世㊤林田重男，中村誠二㊧國島正男㊨黛敏郎，團伊玖磨㊦今福祝

A-25 2/26(木)3:00pm 3/21(土・祝)4:00pm 3/27(金)6:30pm

日本映画新社：林田重男［2］

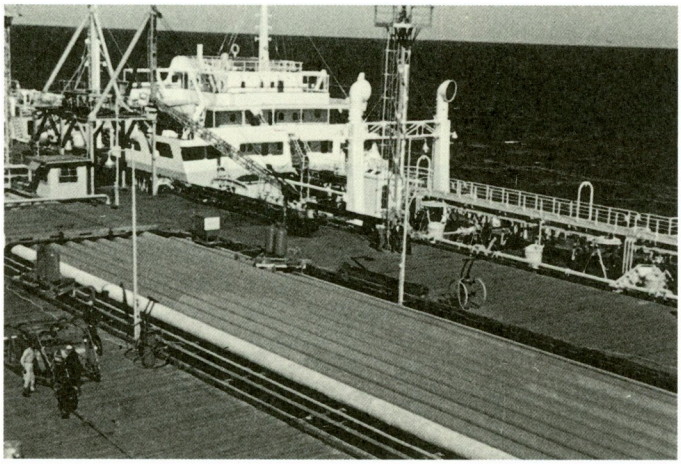
第3回国際地球観測年（1958年）に備えて「昭和基地」建設に向かった日本南極地域第1次観測隊の記録。日本映画新社による完成作品は「カラコルム」や「メソポタミア」などとともに堀場伸世が製作した長篇探検記録映画の一つとして劇場公開された。その最も信頼されるカメラマンとして観測船「宗谷」に同乗した林田重男は唯一の映画担当隊員として本作品のカラー撮影の他，ニュースやテレビ用の白黒撮影，録音の全てをこなした。密群氷に囲まれた宗谷をソ連のオビ号が救援する帰路のアクシデントは残り少ないストックから白黒フィルムを利用して撮影された。

南極大陸（114分・35mm・カラー）
'57（日本映画新社）㊥堀場伸世㊤林田重男㊥伊勢長之助㊨別宮貞雄㊧国島正男㊦秋山雪雄



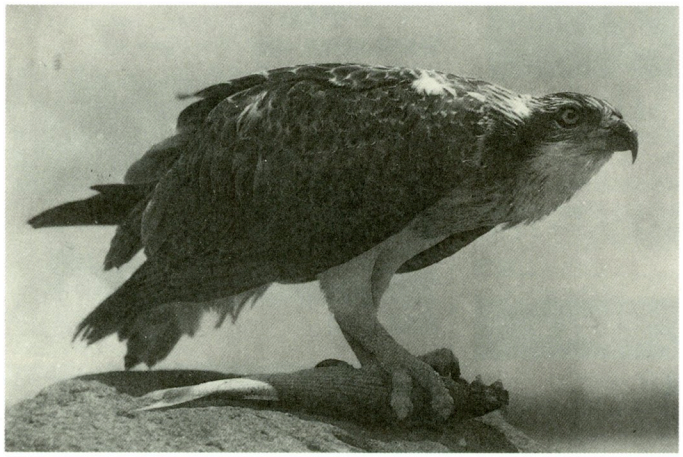
富士山頂観測所

忘れられた土地 ー生活の記録シリーズII



マリン・スノー ー石油の起源ー

黒部川第四水力発電所建設記録 第一部 黒部峡谷



或日の沼池

図書室カレンダー

赤は休室日

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

展示室

写真の現在ー距離の不在

「都市」をめぐる5つのアプローチ

Photography Today — The Absence of Distance

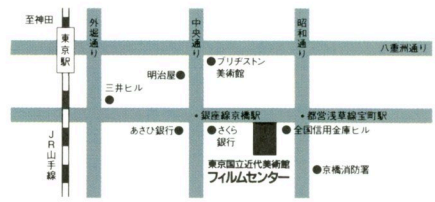
2月10日㊋ー3月28日㊏

都市的状況が世界を均質に覆い，対象との関係を遠近という尺度によって配置することで「風景」を成立させていた距離そのものが失効した「距離の不在」という状況下，写真家たちはあらたな外界へのアプローチを試みています。斎藤さだむ，畠山直哉，楢橋朝子，松江泰治，金村修の5人の仕事から写真の現在を探ります。

●上記写真展の詳細につきましては，当該のチラシをご覧ください。

2階受付では，「NFCニューズレター」(隔月刊)を販売しています。これは，フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報，上映番組の解説，予告等はもちろんのこと，世界のフィルム・アーカイヴやシネマテークの紹介，映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは，国際フィルム・アーカイヴ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として，また，歴史資料としての映画フィルムを，破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター　〒104東京都中央区京橋3-7-6

営団地下鉄銀座線京橋駅下車，出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車，出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
営団地下鉄有楽町線銀座一丁目駅下車，出口9より徒歩5分
JR東京駅下車，八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ：NTTハローダイヤル　03-3272-8600
東京国立近代美術館ホームページ　http://www.momat.go.jp/

1998
2-3
大ホール

フィルムは記録する'98：日本の文化・記録映画作家たち

Glimpses of Nippon '98 : A Japanese Documentary Tradition

	日・月	火	水	木	金	土
2月	8・9	A-1 3:00pm 日本映画社：吉野馨治と小口禎三	A-3 1:00pm 理研映画から新理研映画へ	A-5 3:00pm 中村麟子と日映科学映画	A-7 3:00pm 太田仁吉と科学映画研究所	A-9 1:00pm 亀井文夫と日本ドキュメントフィルム[1]
		A-2 6:30pm 日本映画社：柳沢寿男	A-4 4:00pm 新世界映画社	A-6 6:30pm 小林米作と東京シネマ	A-8 6:30pm 水木荘也と三井芸術プロ	A-10 4:00pm 亀井文夫と日本ドキュメントフィルム[2]
	15・16	A-11 3:00pm 下村兼史	A-13 3:00pm 上野耕三と記録映画社	A-15 3:00pm 野田真吉	A-17 3:00pm 菅家陳彦	A-19 1:00pm 岩波映画の誕生
		A-12 6:30pm 三木茂と三木映画社	A-14 6:30pm 岩佐氏寿	A-16 6:30pm 豊田敬太	A-18 6:30pm 岡部久と山峡視覚教育研究所	A-20 4:00pm 伊勢長之助[1]
	22・23	A-21 3:00pm 伊勢長之助[2]	A-23 3:00pm 日本映画新社：桑野茂	A-25 3:00pm 日本映画新社：林田重男[2]	A-2 3:00pm 日本映画社：柳沢寿男	A-4 1:00pm 新世界映画社
		A-22 6:30pm 日本映画新社：西尾善介	A-24 6:30pm 日本映画新社：林田重男[1]	A-1 6:30pm 日本映画社：吉野馨治と小口禎三	A-3 6:30pm 理研映画から新理研映画へ	A-5 4:00pm 中村麟子と日映科学映画
3月	1・2	A-6 3:00pm 小林米作と東京シネマ	A-8 3:00pm 水木荘也と三井芸術プロ	A-10 3:00pm 亀井文夫と日本ドキュメントフィルム[2]	A-12 3:00pm 三木茂と三木映画社	A-14 1:00pm 岩佐氏寿
		A-7 6:30pm 太田仁吉と科学映画研究所	A-9 6:30pm 亀井文夫と日本ドキュメントフィルム[1]	A-11 6:30pm 下村兼史	A-13 6:30pm 上野耕三と記録映画社	A-15 4:00pm 野田真吉
	8・9	10 休映日	11 休映	12 休映	13 休映	14 休映
	15・16	A-16 3:00pm 豊田敬太	A-18 3:00pm 岡部久と山峡視覚教育研究所	A-20 3:00pm 伊勢長之助[1]	A-22 3:00pm 日本映画新社：西尾善介	A-24 1:00pm 日本映画新社：林田重男[1]
		A-17 6:30pm 菅家陳彦	A-19 6:30pm 岩波映画の誕生	A-21 6:30pm 伊勢長之助[2]	A-23 6:30pm 日本映画新社：桑野茂	A-25 4:00pm 日本映画新社：林田重男[2]
	22・23	A-1 3:00pm 日本映画社：吉野馨治と小口禎三	A-10 3:00pm 亀井文夫と日本ドキュメントフィルム[2]	A-19 3:00pm 岩波映画の誕生	A-24 3:00pm 日本映画新社：林田重男[1]	A-6 1:00pm 小林米作と東京シネマ
		A-9 6:30pm 亀井文夫と日本ドキュメントフィルム[1]	A-15 6:30pm 野田真吉	A-20 6:30pm 伊勢長之助[1]	A-25 6:30pm 日本映画新社：林田重男[2]	A-21 4:00pm 伊勢長之助[2]